

## 自閉症生徒に対する関係づけの思考力を高めるための取組

○谷亜由美 安岡知美 山崎敏秀  
(高知大学教育学部附属特別支援学校)

鈴木恵太 是永かな子 喜多尾哲 寺田信一  
(高知大学)

KEYWORDS : 中枢性統合の弱さ、思考力、システムティック・インストラクション

### 【問題と目的】

A 知的特別支援学校高等部に在籍する自閉症生徒Nは、例えば、荷物を準備する際、必要なものをひとまとめで用意するのではなく、一対一対応で用意する場面が多く、物事の全体像をとらえにくい実態があった。この要因は、自閉症の障害特性の一つである中枢性統合の弱さ(フリス, 1991)にあると考えられる。高等部卒業後の社会生活を見据え、日常生活の中で事柄と事柄とを関係づける思考を習得することは、QOLの向上に繋がると期待される。

そこで本研究では、事柄間の関係づけに関する学習を促す指導法とその効果を検討した。なお、指導のポイントとしては、段階的教授法(システムティック・インストラクション)(小川,2012)を用い、課題の自立を目指した。

### 【方法】

**対象:** 高等部に在籍自閉症生徒N(新版K式発達検査2001の結果 認知・適応領域6:10、言語・社会領域6:9、全領域6:10)

**指導場面:** 自立活動の授業時(週に1時間のうち10分ほどの指導)

**期間:** 201×年10月12日、19日、24日(3回の授業)

**課題:** 日常生活場面の行動から、12の事柄(名詞)を抽出した。これらは、形容詞や副詞などの複数のヒントの言葉から、ほぼ、毎日使う・目にする想定される食べ物や電気機器などであった。(1回目の授業、1問目:傘、2問目:車、3問目:はさみ、4問目:トイレトペーパー、2回目の授業5問目:お風呂、6問目:傘、7問目:時計、8問目:ピアノ、3回目の授業9問目:はみがき、10問目:ラーメン、11問目:布団、12問目:電気)

**指導手続き:** 12問の名詞について、生活の中で関連がある事柄を提示し、正答が出るまで続けた。この際、関連する事柄は、間接的なヒントから、より直接的なヒントまで5つの段階を設定した。例えば冷蔵庫の場合、①関連する形容詞や副詞の提示(冷たい、ジュース、開ける)、②正解の名称と同じ音の数の○を提示(○○○○○)、③正解の名称の語頭音のみの提示、(れ○○○○)、④語頭音から2番目までの音のみの提示(れい○○○、または、れい○○○+ジェスチャー)、⑤全ヒント

指導では、①のヒントから段階的に提示し、生徒Nが正答するまで続けた。

**達成基準:** ①のヒントで正答できた場合を「自立」と定義し、それが5問続いた場合に、課題終了とした。

**評価と分析:** 生徒Nの回答の様子から、正答した際のヒントの段階から、①の評価:4点、②の評価:3点、③の評価:2点、④の評価:1点、⑤の評価:0点と得点化し、分析を行った。

### 【結果と考察】

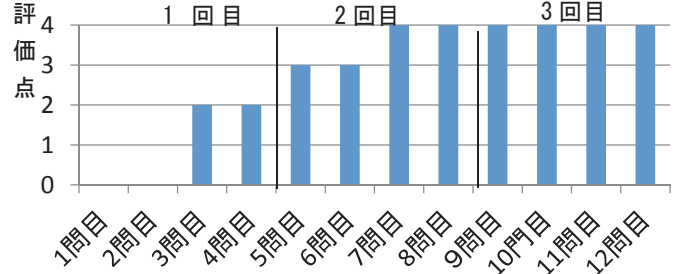


図1 正答の変化

生徒Nの正答の変化を図1に示す。1問目と2問目は正答できなかったが、徐々に評価点が上昇し、7問目から自立となり、それが5問続いたため達成基準を満たした。なお、1問目と6問目は同じ「傘」を課題としたが、6問目では「自立」であったことから学習の効果があったものと考えられる。

国立教育政策研究所(2013)は、『各発達段階で育成することが期待される思考力(案)』を出しており、この表では、小学校中学年程度に「関係づける」の思考力を位置づけている。生徒Nの発達段階は、新版K式発達検査の結果、全領域が6歳10か月であることから、発達段階に見合った課題であったため、指導効果が得られたものとする。今回、システムティック・インストラクションを用いて関係づけの思考について段階的な指導を試みたことで、3回目の授業において達成基準を通過することができた。身近な物に限定した課題であったが、知的障害を併せ有する自閉症生徒に対して、課題に対する思考力を高めることができたものと推察する。

### 【今後の課題】

今回は、名詞レベルの関係づけの思考力を高めるための取組であった。今後の課題としては、日常生活全般における関係づけの思考が必要な場面を抽出し、システムティック・インストラクションを用いることで、さらに難易度を上げた課題に取り組み、関係づけの思考の深化を促す必要がある。

### <引用・参考文献>

- ・ウタ・フリス(1991) 自閉症の謎を解き明かす,東京書籍.
- ・国立教育政策研究所(2013)教育課程の編成に関する基礎的研究報告書5 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則, pp. 96.
- ・小川浩(2012) 障害者の雇用・就労をすすめるジョブコーチハンドブック, エンパワメント研究所.
- (TANI Ayumi・YASUOKA Tomomi・YAMASAKI Toshihide・SUZUKI Keita・KORENAGA Kanako・KITAO Satoshi・TERADA Shin-ichi)